

愛媛県八幡浜市で撮影された ニホンジカ

松田久司・岩田功次

南予生物 Vol.17 (2013) 別刷

【短報】

愛媛県八幡浜市で撮影されたニホンジカ

松田久司¹・岩田功次¹

¹〒796-8039 八幡浜市布喜川甲595番地15 (ヤシロサイン工芸内) 特定非営利活動法人かわうそ復活プロジェクト

愛媛県に生息するニホンジカ *Cervus nippon* には、東予地方の四国中央市から新居浜市の山間部に生息する個体群、東・中予の境界付近の高縄山系に独立して生息すると推測される個体群、南予地方の鬼が城・篠山山系と隣接する西予市山間部に生息する個体群の、三つの個体群があるとされている (愛媛県, 2012)。

南予地方では、八幡浜市においても1960年頃までは生息していたという聞き取り情報があるが (森川・神崎, 1976), その後の生息情報は得られていなかった。ところが、2010年9月頃から八幡浜市八代周辺でニホンジカが目撃されるようになってきた (太田, 私信)。2010年12月17日には八幡浜市川上町 (環境省標準メッシュコード: 5032-1322) でヒノキ造林木に新鮮な剥皮痕が見つかり、2010年12月21日には同造林地でニホンジカの糞粒も確認された。また、2010年12月24日には八幡浜市八代 (環境省標準メッシュコード: 5032-1327) でヒノキ造林地にニホンジカの糞粒が確認された (稲田, 私信)。

こうした、目撃や痕跡の情報はあるものの、写真や標本による生息確認は行われていないため、今回、自動撮影装置による撮影を試み、八幡浜市におけるニホンジカの確認記録を得ることが出来たので報告する。

調査方法

調査は、2011年10月10日から2011年12月13日にかけて実施した。八幡浜市布喜川と八代の林内の、哺乳類が頻繁に利用していると思われる獣道や、木のこすり付け痕およびぬた場の周辺に、5台の自動撮影装置 (麻里府商事製FieldNote

DUO) を設置した (布喜川: 3地点3台, 八代: 1地点2台)。設置場所とそれぞれの環境を表1と図1に示す。

結果・考察

撮影された枚数は5台のカメラ総計590枚で、そのうち八幡浜市布喜川に設置した自動撮影装置 (カメラ番号1) で、2011年11月2日の19時10-11分に1尖角のニホンジカの写真が3枚撮影された (図2-4)。ニホンジカ以外の野生哺乳類としては、ニホンノウサギ *Lepus brachyurus*, ニホンリス *Sciurus lis*, タヌキ *Nyctereutes procyonoides*, キツネ *Vulpes vulpes*, イノシシ *Sus scrofa*, ハクビシン *Paguma larvata* が撮影された。撮影されたニホンジカは、撮影間隔と角の形状から同一個体と考えられるが、調査期間を通じてニホンジカが撮影されたのは、この日だけであった。ニホンジカは雄のみに角が生え、通常1歳の雄で1尖の角となるが、角の形と年齢との関係は絶対的なものではないため (南, 1996), 撮影された個体は1歳以上の雄と考えられる。

日本各地で1980年代後半に入ってからニホンジカの個体数が増えたことにより、農林業被害や、植生を破壊させる問題が発生してきている (辻岡, 1999; 湯本・松田, 2006; 依光, 2011)。愛媛県とその周辺の天然林への具体的な被害については、南予地方において滑床山および黒尊山国有林の山頂周辺の天然林やササ原に顕著な被害が発生しているとの報告がある (奥村ほか, 2010)。また、奥村ほか (2011) は、三本杭周辺の天然林の調査地における、主要樹種毎のニホ

表1. 自動撮影装置の設置場所 (地点およびカメラ番号は図1に対応)

調査地 番号	調査地点名	緯度(世界系)	経度(世界系)	環境省標準 メッシュコード	標高(m)	植生	地形	カメラ 番号
1	八幡浜市布喜川	33.419877	132.443774	5032-0395	240	針葉樹の人工林	谷筋	1
2	八幡浜市布喜川	33.419973	132.443930	5032-0395	240	針葉樹の人工林	谷筋	2
3	八幡浜市布喜川	33.419904	132.443581	5032-0395	240	針葉樹の人工林	谷筋	3
4	八幡浜市八代	33.430815	132.426136	5032-1314	350	果樹園の中の雑木林	谷筋	4, 5

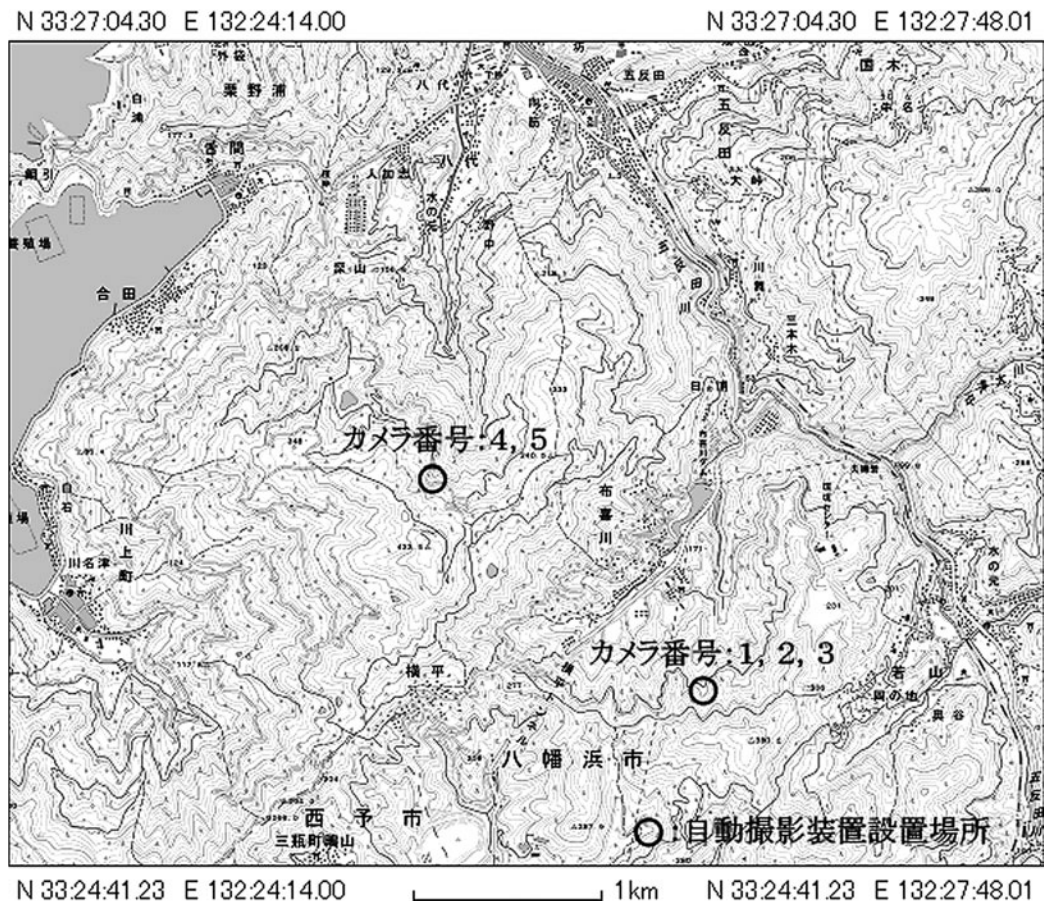


図1. 自動撮影装置の設置場所 (国土地理院発行, 2万5千分の1地形図「八幡浜」より作図)



図2. 撮影されたニホンジカ (19:10撮影)



図3. 撮影されたニホンジカ (19:11撮影)



図 4. 撮影されたニホンジカ (19:11 撮影)

ンジカによる嗜好度と剥皮害に対する抵抗力の違いについて報告している。八幡浜市に隣接する西予市では、農作物に被害は少ないものの、ヒノキなど植林木に対しての被害は広い地域で見られるという(愛媛県, 2012)。近年では、西条市の山間部でも新たにニホンジカの生息が確認されるようになってきており(山本ほか, 2008; 金城ほか, 2010), 個体数の増加による被害の拡大が懸念されるため, 今後も自動撮影装置を使用し, 南予南部のニホンジカの個体群の動向に注視していきたい。

謝 辞

八幡浜市役所農林課の太田真司氏に目撃情報を教えていただいた。八幡浜支局森林林業課(当時)の稲田哲治氏には剥皮痕や糞粒の確認情報を教えていただいた。自動撮影装置の購入に対して伊予銀行環境基金「エバーグリーン」に助成をいただいた。記して感謝の意を表する。

引用文献

- 愛媛県. 2012. 第2次愛媛県ニホンジカ適正管理計画(特定鳥獣保護管理計画). 愛媛県, 愛媛. 19pp. (オンライン) 入手先 <http://www.pref.ehime.jp/ICSFiles/afieldfile/2012/03/26/2_honbun.pdf>, (2012年7月20日参照)
- 金城芳典・谷地森秀二・山本貴仁. 2010. 自動撮影で確認された愛媛県西条市の哺乳類. 面河山岳博物館研究報告, (4): 49-54.
- 南 正人. 1996. ニホンジカ. 日高敏隆(監), 日本動物大百科 哺乳類. 平凡社, 東京. 112-117.
- 森川国康・神崎雅広. 1976. 愛媛県における大中型哺乳類の生息状況について. 松山東雲短期大学研究論文集, 7(2): 129-141.
- 奥村栄朗・奥田史郎・伊藤武治. 2010. 滑床山・黒尊山国有林のニホンジカによる森林被害に関する調査. 森林総合研究所四国支所年報, 51: 9.
- 奥村栄朗・奥田史郎・伊藤武治・酒井敦. 2011. 四国南西部・三本杭におけるニホンジカの剥皮害による天然林衰退. 森林総合研究所四国支所年報, 52: 18-21.
- 辻岡幹夫. 1999. シカの食害から日光の森が守れるか 野生との共生を考える. 随想舎, 栃木. 159pp.
- 山本貴仁・矢野真志・宮本大右・宮内福雄・古川真理. 2008. 石鎚山系において自動撮影により確認された哺乳類(2006年-2007年). 面河山岳博物館研究報告, (3): 25-28.
- 依光良三. 2011. シカと日本の森林. 築地書館, 東京. 244pp.
- 湯本貴和・松田裕之. 2006. 世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学. 文一総合出版, 東京. 212pp.
- 南予生物17: 41-43. (2012年8月20日受付)

連絡先 松田久司(〒796-8010 八幡浜市五反田1-933 e-mail: vzz02040@nifty.ne.jp)